

北里研究所・東洋医学総合研究所活動報告

所 長 花 輪 壽 彦
担当理事 山 田 陽 城
(WHO 伝統医学研究所協力センター長)
名誉所長 大 塚 恭 男

本年度は新棟 3 年目を迎え、診療・研究・教育・啓発を中心とした事業を展開した。

公益事業としては、これまで同様にWHO伝統医学研究所協力センター活動、研究活動、及び教育活動を行った。

1) 大学院・学部教育

大学院教育：花輪壽彦所長は北里大学大学院医療系研究科「東洋医学」の指導教授（連携大学院客員教授）として「東洋医学」専攻の 2 名の大学院生の教育・研究指導を行った。また、「東洋医学」特論講義（13 回）を相模原キャンパスで実施した。平成 16 年度も医学部卒業の 2 名の大学院生が同博士課程に入学し、花輪教授より指導を受けることになっている。山田陽城部門長は北里大学大学院感染制御科学府（学府長：山田陽城）の「和漢薬利用科学」の指導教授として 7 名の修士課程の大学院生の教育・研究指導を行った。研究指導は北里大学北里生命科学研究所（所長：山田陽城）の和漢薬物学研究室で行い、15 回の「和漢薬利用科学」の大学院講義を外部講師も交え行った。山田教授は北里大学薬学研究科の教授も兼任し、博士課程学生 1 名の研究指導も行った。清原寛章室長（助教授）も生体分子機能科学の講義を担当した。大学院感染制御科学府の清原寛章助教授、永井隆之室長補佐（専任講師）、松本司室長補佐（専任講師）、矢部武士主任（専任講師）も同大学院の基本技術講座を始め研究室所属大学院生の教育・研究指導を行った。

学部教育：花輪壽彦所長は引き続き北里大学客員教授として薬学部（東洋医学概論）の講義を清原寛章室長、早崎知幸医師とともに行った。また、花輪所長は医学部の講義を、また山田陽城部門長は同大学教授として薬学部（生薬学）の講義を担当した。また東医研からは 10 大学に講師を派遣し、東洋医学関連の講義を行っている。

2) 啓蒙活動

北里研究所では啓蒙活動の一貫として、4 月 19 日と 11 月 1 日に白金キャンパスの北里研究所病院において健康に関する市民セミナー「北里研究

所公開健康セミナー（第 7 回及び第 8 回）」を開催し、第 7 回では早崎知幸医師による「がんと漢方治療」、また第 8 回では及川哲郎医師による「こんな時には漢方を～胃腸病を中心に～」の講演があった。また、10 月 11 日には東洋医学の啓蒙活動として第 3 回東洋医学健康フォーラムが開催され、約 300 名の市民の出席のもと、花輪所長の挨拶に続き、料理研究家・結城貢先生による「親と先生と他人様～食と健康～」、「漢方で治る病気」と題して東洋医学総合研究所医師によるラウンドディスカッション、漢方・鍼灸体験コーナーなどが催された。

3) 第 25 回医学生・研修医のための東洋医学セミナー開催

昭和 51 年の第 1 回以来、本セミナーは回を重ね、毎年全国各地から熱心な医学生・研修医が集い、東洋医学の基礎知識の習得と漢方・鍼灸の体験学習を行い、その後の臨床の現場に生かされているようである。

平成 15 年度は 8 月 4 日から 6 日間の日程で開催し、北は旭川医科大から南は山口大までの全国各地から、東洋医学に関心のある学生 24 名、研修医師および中堅医師 6 名の参加があった。講習内容は、漢方・鍼灸の基礎理論から実際の臨床現場の内容まで、大学の講義では触れることのない医史学の話から最先端の研究の現状まで、東洋医学のすべてを網羅するものであった。講師陣は、花輪所長を筆頭とする当研究所のスタッフに加え、今回も当セミナーの趣旨にご賛同頂いた、先生方に特別講義や見学指導という形でご参加頂いた。当研究所顧問の難波恒雄先生には「世界の民族薬物を求めてーチベット・ヒマラヤの薬物」、富山医大の寺澤捷年先生には「東洋の知と科学」、当研究所顧問の大澤仲昭先生には「漢方の EBM の確立」と題し、それぞれのご専門の立場から素晴らしいご講義を賜わることができ、受講生のみならず、聴講した所員にも大変興味深いものであった。また、受講生の間で最も関心の高い実習は、漢方診療部・鍼灸診療部・薬剤部の各部門で長時間にわたり行われ、最終日の質疑応答および懇親会では受講生からの活発な質問と討論がなされた。昨年度より講義初日にも懇親会を企画し親睦を深める事で、講習全体に一体感が生まれていた。ひとつ残念なことは、6 日間の講習のしめである最終日の午前中に予定されていた、好例の東京都薬

用植物園の見学が台風のため中止になったことである。

以前は医学生を対象とした卒前教育のセミナーは数少なく、当研究所はその嚆矢ともいえるべき存在であったが、近年日本東洋医学会や各施設で同様のセミナーが開催される様になってきた。さらに、平成13年の4月より大学医学部ではコアカリキュラムの中に漢方医学の知識が必須科目として加えられ、大学教育での漢方医学の必要性が認められた。今後、現代医療の中での漢方治療の必要性もさらに大きくなると思われる。医学生からすると、漢方医学のスタンダードとは何かという疑問を感じる場面も多いと思われる。ここで、日本の伝統医学である漢方医学を継承してきた当研究所が北里東医研流のスタイルを明確に提示していく事が使命と考えている。さらに今後は、中級者以上に対する講義内容も検討し、斬新な企画を盛り込み、『伝統医学の継承と発展のために』という基本理念を実現させたい。

4) 国外講演

山田陽城研究部門長は2月上旬にタイ（チェンマイ）で開催された **The 3rd World Congress on Medicinal and Aromatic Plants for Human Welfare** において **scientific committee** を務め、講演を行った。また12月上旬にタイ（バンコク）で開催された日タイ合同セミナー（**JSPS-NRCT Core University System on Natural Medicine in Pharmaceutical Sciences**）Recent Advances in Natural Medicine Research において招待講演を行い、清原寛章室長がポスター講演を行った。8月には永井隆之室長補佐が韓国・釜山で開催された **The 9th Southeast Asian-Western Pacific Regional Meeting of Pharmacologists** において招待講演を行った。9月には韓国・慶州で開催された **WHO 西太平洋地域の会議 Second Consultation and Modern Medicine: Harmonizing the two approach** に櫻井正智医師が花輪所長の代理として **Temporary Advisor** として出席した。11月には早崎知幸医師が **First World Congress on Chinese Medicine (WCCM 2003)** に出席した。

5) 特殊外来開設

漢方診療部の特殊外来として平成14年度は女性のための女性スタッフによる「東洋医学レディースクリニック（内科系高橋医師・婦人科系大坪医師）」、小児科医による「キッズクリニック（早崎理香医師）」を開催し好評を得ている。さらに今年度は、胃腸外来（伊藤医師、及川医師）、咳・呼吸器外来（高橋医師）腎疾患外来（米田医師）、

炎症性腸疾患外来（玄医師）、膝・腰・関節外来（八代医師）を開設し各医師の専門性を生かした漢方診療部の充実を図った。

6) 白金構内整備

（社）北里研究所・（学）北里学園の共同事業として平成8年から進められておりました北里白金構内整備計画は、第1期工事 平成11年3月、北里研究所病院新棟、第2期工事 平成13年2月、アネックス棟（東洋医学総合研究所）・同5月、教育研究A棟、第3期工事 平成14年9月、教育研究B棟（北里生命科学研究所、薬学部コンベンションホール）の竣工、平成15年2月の緑地・コミュニティスペースの完成を最後に平成15年2月末に足掛け8年間に及ぶすべての計画が終了となった。

I. 診療部門

| | |
|-------|------|
| 部門長 | 石野尚吾 |
| 漢方診療部 | |
| 所長 | 花輪壽彦 |
| 部長 | 村主明彦 |
| 客員部長 | 柳澤紘 |
| 副部長 | 伊藤剛 |
| 医長 | 及川哲郎 |
| 医長 | 鈴木邦彦 |
| 医員 | 早崎知幸 |
| 医員 | 高橋裕子 |
| 医員 | 大坪眞紀 |
| 特別研修医 | 米田吉位 |
| 特別研修医 | 玄世鋒 |
| 特別研修医 | 八代忍 |
| 客員医師 | 佐藤弘 |
| 客員医師 | 頼建守 |
| 客員医師 | 早崎理香 |
| 客員医師 | 櫻井正智 |

◇漢方診療の活動概要

当研究所の漢方外来では漢方本来の形である湯液治療を中心に行っている。当然のことであるが、漢方独特の診察法である四診に基づいて、病名治療ではなく、患者個人個人の病態に合わせたきめの細かい、テーラーメイド診療を実践している。

これまでの一漢方診療担当医が、あらゆる方面の疾患を総合的に診るスタイルに加え、時代の要請もあり、漢方専門外来を多数設置するに至った。先発の漢方レディースクリニック（婦人科系/内科系）、キッズ外来、咳・呼吸器外来、腎疾患外来、炎症性腸疾患外来、胃腸外来に加え、整形外

科漢方医の人材を得て、膝・腰・関節外来を新設した。

変形性膝関節症，腰痛，関節リウマチ等，われわれがこれまでも扱うことの多かった疾患に，専門の立場から，必要があれば，血液検査・画像診断・関節穿刺等も実施し，よりの確な漢方治療が可能となった。画像を交えての懇切丁寧な説明が患者に好評である。漢方診療専門機関である北里・東医研漢方診療部門には伝統的随証治療の修得と漢方医学の科学的解明を目的に多くの医師が集う。受け入れにはいくつかのルートがある。その第一は漢方研修医制度に応募してくる医師たちである。所属長の推薦のもと，2年の年限で漢方医学の実際(全て)を会得することを目標とする。

1期2～3名を定員とする。漢方は初心者であってもそれぞれの専門分野では専門医として第一線で活躍している中堅医師が大半で，自身の最先端の専門分野については，逆にこちらが教わることもあり，互いに鼓舞されるところ大である。第二は花輪壽彦所長が兼任する北里大学大学院医療系研究科東洋医学の院生による所長外来陪席と自身の研究テーマの外来における実践である。第三は北里大学医学部学生(6年生)の院外研修の一環としての漢方外来見学である。第四は少数であるが，個人的な依頼による短期的見学(ただし運営会議において了承される必要あり)である。特に，月曜日午前は所長の研修指導外来になっており，常勤医の指導のもと，研修医が予診をとり，漢方医学的診察に基づいた仮診断をつけて，所長の本外来に臨む。漢方診療のプロセスを体得できる数少ない機会である。外来以外にも漢方を学ぶ機会は数多い。医局薬局勉強会，フォローアップ検討会，新患検討会，抄読会・リサーチカンファレンス，北里東医研・北鎌倉東洋医学研修センター古典勉強会などである。このうち，新患検討会は，会に先立つ1週間の全新患を各担当医がプレゼンテーションする会である。この会で利用するデータベースを作成する作業が研修医に課せられる。新患一人一人の舌証・脈証・腹証・方剤…を打ち込んでいくきわめて煩雑な作業であるが，陪席できなかった漢方医の処方決定のプロセスをつぶさに検証することにもつながり，目的意識をもって取り組みれば，きわめて有用な漢方学習の機会となる。医局には専用の百味筆筒が用意されていて，自身で自由に漢方薬を調合し服用することができる。研修医には研修期間中に大方の処方については，必ず煎じてその味・におい・服薬のしやすさ等を体得するよう要求される。個々の漢方薬の特徴をつかむと同時に，患者の立場にたった医療を感得する貴重な体験である。半年もすると，医局で煎

じている漢方薬を，そのにおいから当てることができるほどに進歩する。研修医・常勤医もふくめ医局員の大半は臨床研究部研究員および隣接する北里研究所病院総合内科医師を兼任している。必要があれば動物も含めた各種実験・研究も行えるし，また必要があれば各種血液・生化学検査，画像診断，光学医療診断も行うことも可能で，診療の自由度という点では申し分のない環境である。昨今の医療事情に鑑み，副作用のチェックには殊のほか注意を払っている。一定の制約はあるが，この1年で東洋医学外来のなかでも採血・超音波検査を筆頭に各種生理学的検査が数多く行えるようになり(ただし自由診療)，日に日にその件数は増えている。種々の研究機関とのコラボレーションも盛んで，北里大学神経内科，坂井教授の「頭痛」外来とのタイアップをはじめ，北里研究所耳鼻科との「めまい」研究でも漢方治療の有用性が確実に証明されつつある。医局員・院生を始め研究所に所属する個々人の研究が漢方という共通の言語で語られ，有機的連関をとるようになった時，組織としての総合力が最大限に発揮されることとなる。その萌芽は随所にみられる。教育・診療・研究三位一体の東洋医学を実践できる場合は，日本にはそう多くないのが現状で，われわれに課せられた責任は重大である。各人がそれぞれの自覚をもって東洋医学の発展に寄与できれば，それ以上の喜びはない。

◇原著論文

- 1) 鈴木邦彦，齊川真聰，山浦卓，小口勝司，中山貞男：絶食ストレスによる脂質過酸化物質と一酸化窒素の変化に対する漢方薬の影響，昭和医学会雑誌，63(3)
- 2) 早崎知幸，花輪壽彦：全身性ジストニアに甘麦大棗湯が有効であった1例，漢方の臨床，50(2)：201-206(2003)

◇著書

- 1) 早崎知幸，花輪壽彦，監修：癒食同源，角川文庫(2003)
- 2) 鈴木すみ江，作田勉，早崎理香他，監修：先輩ママの知恵袋，世論時報社

◇総説

- 1) 鈴木邦彦，花輪壽彦：漢方治療中も西洋医学的なみかたを忘れてはいけない！，治療増刊号，85(3)：180(780)－182(782)(2003)
- 2) 花輪壽彦：随証治療の経験から，第53回日本東洋医学会学術総会特別シンポジウム，病名投与にない漢方薬の思わぬ薬効，日本東洋医

- 学雑誌, 54(2) : 346-348 (2003)
- 3) 花輪壽彦 : 「漢方医学の EBM」という議論をめぐって, 和漢薬, 601 : 6 (2003)
 - 4) 高橋裕子, 米田吉位, 櫻井正智, 花輪壽彦 : 北里東医研診療録から (1) 壮原湯の使用経験, 漢方の臨床, 50(8) : 1103-1106 (2003)
 - 5) 玄世鋒, 八代忍, 大坪眞紀, 花輪壽彦 : 北里東医研診療録から (2) 頭痛に抑肝散, 漢方の臨床, 50(9) : 1244-1248 (2003)
 - 6) 村主明彦, 鈴木邦彦, 花輪壽彦 : 北里東医研診療録から (3) 疎経活血湯加減が有効であった 3 症例, 漢方の臨床, 50(10) : 1408-1412 (2003)
 - 7) 米田吉位, 櫻井正智, 花輪壽彦 : 北里東医研診療録から (4) 唾石症に対する漢方治療, 漢方の臨床, 50(11) : 1560-1564 (2003)
 - 8) 高橋裕子, 大坪眞紀, 花輪壽彦 : 北里東医研診療録から (5) 不眠・うつ状態に加味温胆湯, 竜骨湯を処方して別人のようになった 2 症例, 漢方の臨床, 50(12) : 1683-1687 (2003)
 - 8) 花輪壽彦 : 伝統医薬の創造的継承, 第 20 回和漢医薬学会大会, ラウンドディスカッション, 熊本, 2003. 8. 30-31
 - 9) 伊藤剛, 及川哲郎, 花輪壽彦 : 胃機能としての胃液酸度からみた腹診の意義, 第 20 回和漢医薬学会大会, 熊本, 2003. 8. 31
 - 10) 米田吉位, 布目慎勇, 横山公要, 山田陽城, 花輪壽彦 : 血液透析中のこむら返りに対する芍薬甘草湯の作用機序解明の試み, 第 20 回和漢医薬学会大会, 熊本, 2003. 8. 30-31
 - 11) 鈴木邦彦, 花輪壽彦 : 啓脾湯の 2 症例, 第 13 回漢方治療研究会, 東京, 2003. 9. 28
 - 12) 玄世鋒, 花輪壽彦 : 当院研究所におけるクローン病 22 名に対する随証治療の効果, 第 60 回 関 東 甲 信 越 支 部 学 術 総 会, 群 馬, 2003. 10. 12
 - 13) 及川哲郎, 小山秀彦, 小川聡, 樋口良太, 大谷圭, 蔭原聞夫, 伊藤剛, 花輪壽彦 : 上部消化管運動に及ぼす半夏厚朴湯の効果～健常成人を中心とした検討～, 第 45 回日本消化器病学会大会, 大阪, 2003. 10. 15
 - 14) 及川哲郎, 伊藤剛, 花輪壽彦 : 消化管機能に及ぼす漢方薬の影響—半夏厚朴湯を中心に—, 第 3 回腸管の機能と免疫研究会学術集会, 東京, 2003. 11. 15

◇学会報告

- 1) 伊藤剛, 長谷川愛子, 高橋裕子, 花輪壽彦 : 中核温からみた「冷え症」の病態解析, 第 54 回日本東洋医学会学術総会, 福岡, 2003. 5. 17
- 2) 長谷川愛子, 伊藤剛, 花輪壽彦 : 「食後佳眠倦怠」の病態解析 (第 1 報) —健常者における食後傾眠について—, 第 54 回日本東洋医学会学術総会, 福岡, 2003. 5. 17
- 3) 及川哲郎, 伊藤剛, 花輪壽彦 : 半夏厚朴湯の上部消化管運動に及ぼす影響について～健常成人での検討～, 第 54 回日本東洋医学会学術総会, 福岡, 2003. 5. 17
- 4) 早崎知幸, 花輪壽彦 : 三黄瀉心湯が有効であった 4 症例, 第 54 回日本東洋医学会学術総会, 福岡, 2003. 5. 17
- 5) 米田吉位, 玄世鋒, 竹内ゆかり, 花輪壽彦 : 半夏厚朴湯の動脈硬化に対する脈派硬化に対する脈波伝播速度 (PWV) を用いた検討, 第 54 回日本東洋医学会学術総会, 福岡, 2003. 5. 17
- 6) 米田吉位, 竹内ゆかり, 花輪壽彦 : 漢方薬の動脈硬化に対する脈派伝播速度 (PWV) を用いた検討, 第 3 回臨床動脈派研究会, 東京, 2003. 6. 7
- 7) 米田吉位, 布目慎勇, 横山公要, 山田陽城, 花輪壽彦 : 血液透析中のこむら返りに対する芍薬甘草湯の作用機序を考える, 第 48 回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会, 大阪, 2003. 6. 20-22

◇特別講演

- 1) 早崎知幸 : 漢方医学入門, えびす大学, 東京, 2003. 1. 21
- 2) 石野尚吾 : 更年期障害と漢方, 自治医科大学漢方研究会, 栃木, 2003. 2. 14
- 3) 石野尚吾 : 女性の漢方, 日本漢方協会, 2003. 2. 16
- 4) 花輪壽彦 : アトピーと東洋医学, 北里柴三郎博士生誕 150 周年記念事業企画, 熊本, 2003. 2. 15
- 5) 花輪壽彦 : 漢方のまとめ, 漢方薬・生薬認定薬剤師講座, 大阪, 2003. 2. 16
- 6) 鈴木邦彦 : 入門漢方医学—体の悩みや不調を漢方で解消—, 中央社会保険健康センター健康セミナー, 東京, 2003. 3. 1
- 7) 花輪壽彦 : 漢方入門, 北里大学医学部第 1 学年医学原論・医学原論演習特別講義, 北里研究所, 2003. 4. 10
- 8) 早崎知幸 : 「病氣」を治すということ—漢方とアレルギー疾患の視点から—, 科学ジャーナリストの会, 東京, 2003. 4. 11
- 9) 花輪壽彦 : 漢方概論, 平成 15 年度漢方薬・生薬研修会カリキュラム, 2003. 4. 13
- 10) 早崎知幸 : がんと漢方治療, 北里研究所第 7

- 回公開健康セミナー，東京，2003. 5. 10
- 11) 花輪壽彦：漢方医学の現状と課題，島根漢方研究会，島根，2003. 5. 11
 - 12) 早崎理香：アレルギーに負けない体を作る食べ物，目黒区立下目黒小学校 PTA，2003. 6. 17
 - 13) 石野尚吾：漢方と骨粗鬆症，第 23 回日本骨形態計測学会，東京，2003. 7. 3-5
 - 14) 早崎知幸：頭がよく働く脳の状態，川崎市立木月小学校 PTA 成人委員会「家庭教育学級」，神奈川，2003. 7. 4
 - 15) 早崎知幸：老後を健やかに過ごすための東洋医学の知恵，社会福祉法人サンシルバー町田「公開セミナー」，東京，2003. 7. 8
 - 16) 花輪壽彦：漢方各論 (3) - 免疫・アレルギー - ，平成 15 年度漢方薬・生薬研修会カリキュラム，東京，2003. 7. 20
 - 17) 花輪壽彦：腹診概論および実技指導，日本東洋医学会主催卒前セミナー，東京，2003. 8. 20
 - 18) 櫻井正智，早崎知幸，高橋裕子，花輪壽彦：東洋医学における“こころ”と体の関係，“心と遺伝子”研究会，筑波大学，2003. 8. 20
 - 19) 伊藤剛：漢方医学へのアプローチ，第 10 回浜松東洋医学研究会特別講演，浜松，2003. 9. 6
 - 20) 花輪壽彦：漢方各論 (5) - 漢方診療の諸注意 - ，平成 15 年度漢方薬・生薬研修会カリキュラム，東京，2003. 9. 14
 - 21) 櫻井正智：WHO 伝統医学と現代医学の調和のための学会，慶州（韓国），2003. 9. 17-20
 - 22) 花輪壽彦：矢数道明先生・北里東医研所長時代の処方傾向について，漢方治療研究会，東京，2003. 9. 28
 - 23) 花輪壽彦：東洋医学概論（漢方医学），北里大学薬学部講義，2003. 10. 1
 - 24) 花輪壽彦：東洋医学概論（漢方医学），浜松医科大学講義，静岡，2003. 10. 2
 - 25) 花輪壽彦：私の日常診療から～半夏厚朴湯の使用経験から～，日本東洋医学会東京支部会，東京，2003. 10. 5
 - 26) 伊藤剛，及川哲郎，早崎知幸，大坪真紀：漢方で治る病気，第 3 回東洋医学健康フォーラム，東京，2003. 10. 11
 - 27) 伊藤剛：痛みの東洋医学的治療，消化器領域の疼痛性疾患に対する東洋医学的治療，第 60 回日本東洋医学会関東甲信越支部学術総会，群馬，2003. 10. 12
 - 28) 伊藤剛：冷え症の科学的解明，第 19 回日本東洋医学会東北支部会特別講演，盛岡，2003. 10. 19
 - 29) 花輪壽彦：現代医療における漢方の役割，北

里生命科学研究大学院講義，東京，2003. 10. 15

- 30) 花輪壽彦：気剤の効かせ方～香蘇散と半夏厚朴湯～，平成 15 年度日本東洋医学会関西支部例会，和歌山，2003. 10. 26
- 31) 早崎知幸：食事と脳と性格の関連について，人間性復活運動第 2 回体験講座，東京，2003. 10. 26
- 32) 及川哲郎：こんな時には漢方を～胃腸病を中心に～，北里研究所第 8 回公開健康セミナー，平成 15 年 11 月 1 日
- 33) 花輪壽彦：現代医療の中の東洋医学，浜松医科大学講義，静岡，2003. 11. 20
- 34) 高橋裕子：医事講演「漢方治療のあれこれ」，野村病院予防医学センター友の会秋の集い，東京，2003. 11. 22

◇その他

- 1) 花輪壽彦：漢方を使ってみる 44 「肥満」，都医ニュース 177 (2003)
- 2) 花輪壽彦：ドクター漢方のひとくちメモ 39 「胆石・胆嚢炎」，ALPHA CLUB256 (2003)
- 3) 花輪壽彦：頭痛，不眠症，うつ病，神経症，自律神経失調症，パーキンソン病など，漢方あなたに合ったやさしい処方，別冊 NHK きょうの健康 (2003)
- 4) 花輪壽彦：ドクター漢方のひとくちメモ 40 「高脂血症」，ALPHA CLUB257 (2003)
- 5) 村主明彦：C 型慢性肝炎にも，メディアあさひかわ，117 : 238, (2003)
- 6) 村主明彦：潰瘍性大腸炎に効果は？，メディアあさひかわ，118 : 95 (2003)
- 7) 村主明彦：冷え症に悩む女性にも，メディアあさひかわ，119 : 100 (2003)
- 8) 村主明彦：腰痛にも予想を上回る効果，メディアあさひかわ，120 : 101 (2003)
- 9) 村主明彦：花粉症もピタリと止まる？，メディアあさひかわ，121 : 105 (2003)
- 10) 村主明彦：痔に悩んでいます，メディアあさひかわ，122 : 113 (2003)
- 11) 村主明彦：五十肩に二朶湯，メディアあさひかわ，123 : 101 (2003)
- 12) 村主明彦：不眠に・苡仁湯，メディアあさひかわ，124 : 113 (2003)
- 13) 村主明彦：めまいに苓桂朶甘湯，メディアあさひかわ，125 : 101 (2003)
- 14) 村主明彦：しゃっくりに“柿のへた”，メディアあさひかわ，126 : 101 (2003)
- 15) 村主明彦：中高年の肥満に防己黄耆湯，メディアあさひかわ，127 : 101 (2003)

- 16) 村主明彦：癌には補剤が威力を發揮，メディアあさひかわ，128：105(2003)
- 17) 村主明彦：「漢方雑感」薬学教育の一端を担って～百聞は一服に如かず～，和漢薬，603:1(2003)
- 18) 村主明彦：漢方医学とは～過去・現在・未来～，クリンネス12：39(2003)
- 19) 伊藤剛：冷え症，Smaクリニック，2003.7.26
- 20) 伊藤剛：冷え性，日本農業新聞，2003.11.2
- 21) 伊藤剛：食後佳眠倦怠と食事性低血圧，和漢薬，604:21(2003)
- 22) 早崎理香，早崎知幸，矢久保修嗣：日常診療と漢方(5) 一小儿科領域の漢方治療一，P&M Kampo，8(1)：4-10(2003)

I-2. 鍼灸診療部

| | |
|----------|------|
| 部長(兼務) | 石野尚吾 |
| 客員部長(兼務) | 柳澤紘 |
| 医師(兼務) | 伊藤剛 |
| 主任 | 石原武 |
| 主任 | 今泉護 |
| 主任 | 小山基 |
| 非常勤鍼灸師 | 掛川一五 |

◇研究概要

- 1) 下記の疾患を中心とする諸疾患に対する鍼治療の臨床的効果と影響に関する検討と解析：変形性膝関節症、帯状疱疹後神経痛、顔面神経麻痺、慢性関節リウマチ、アトピー性皮膚炎、尿失禁。
- 2) 疼痛に関する臨床的研究
- 3) 鍼灸治療の免疫機能への影響の検討
- 4) 鍼灸治療による皮膚への生理学的作用の研究

◇診療業務などの活動概要

鍼灸診療部は、現在完全予約制で、月曜日から土曜日まで診療を行っている。

毎週1回、新患を含め現在来院中の患者さん全員について臨床的な検討を継続的に行い、治療に反映させている。見学者、研修生の希望も多い。患者も徐々にではあるが、増加の傾向である。

◇総説

- 1) 鍼灸医学入門，総論(1)，からだの科学，229，124～128，2003. 3
- 2) 鍼灸医学入門，総論(2)，からだの科学，230，90～96，2003. 5
- 3) 世界の中の鍼灸，からだの科学，231，114～119，2003. 7
- 4) 鍼灸医学各論(1)，からだの科学，232，113

～119，2003. 9

- 5) 鍼灸医学各論(2)，からだの科学，233，102～07，2003. 11
- 6) 鍼灸医学各論(3)，からだの科学，234，128～134，2004. 1
- 7) 柳澤紘：座談会「花粉症の診断と鍼灸治療」，医道の日本社，62(1)：113～127，2003. 1

◇学会

- 1) 石野尚吾：鍼灸について，第26回日本医学総会，福岡市，2003. 4. 4～8.

◇特別講演

- 1) 小山基：顔面筋痙攣に対する鍼治療，一脳内海綿状血管腫症例を含む一，日本鍼灸師会，東京，2003. 6. 22

◇著書

- 1) 石原武：医学大辞典，医学書院，分担執筆，2003. 3. 31

◇その他

- 1) 石野尚吾：鍼灸よろず相談，日本経済新聞，毎週火曜日夕刊連載
- 2) H. Yanagisawa: Tsubo-Acupoint, Encyclopedi a, Bilingual Edition in English and French, Supervised, CD-ROM Springer-Verlag Electronic Media, 2003. 1

II. 薬剤部門薬剤部

| | |
|----------|-------------------|
| 部門長(兼務) | 山田陽城 |
| 副部長 | 金成俊 |
| 主任 | 緒方千秋 |
| 副主任 | 坂田幸治 |
| 薬剤師 | 今野初子 |
| 薬剤師 | 西郡秀文 |
| 薬剤師 | 小林文子 |
| 薬剤師 | 水澤深雪 |
| 薬剤師 | 中村恵子 |
| 薬剤師(非常勤) | 伊東美貴 |
| 薬剤師(非常勤) | 山岡法子 |
| 薬剤師(研究生) | 岸麻理子 |
| 薬剤師(研究生) | 垣田あおい(7.28-10.31) |

◇研究概要

薬剤部では、生薬調剤を基本としており、研究所における漢方の臨床薬局として、薬剤業務に関する諸問題改善を前提に各自が研究テーマを定め、テーマ毎に研究活動を行いその成果を学会等に報

告している。

今年度の研究内容を以下に示す。

- 1) 3次元クロマトグラフィによる漢方製剤の品質評価
- 2) 東医研オリジナル漢方製剤の管理方法の検討
- 3) 古典に基づく漢方薬の特殊な煎出方法の意義
- 4) 生薬標本の整理とデータベース化
- 5) 初診患者の動向調査及び再受診中断の解析
- 6) 生薬スライドの整理と情報提供への活用
- 7) 治療効果の認められる入浴剤の検討
- 8) 煎じ薬の濃度に関する漢方薬煎液パラメーター調査
- 9) 生薬名の来歴調査
- 10) 服薬指導の英語(字幕)ビデオの作成
- 11) サプリメント・OTCなどと漢方薬併用に関する検討
- 12) 漢方製剤の煎出時間の違いによる成分比較
- 13) 生薬及び漢方薬の電解質濃度の検討
- 14) 入院患者情報カードによる病棟活動の充実
- 15) 漢方薬の調剤エラー調査と防止の検討
- 16) 漢方薬局業務・病院実習のマニュアル作成。
- 17) 処方原典の調査とデータベース化
- 18) 漢方薬と西洋薬の併用についての調査
- 19) 治療中止となった処方とデータベースの検討

◇薬剤業務の活動内容

昨年開始した「煎じ代行業務」は、身体が不自由、高齢、多忙などの理由により煎じられない患者に、その後も好評を得ており、当薬剤部において新しい漢方薬の剤形として定着しつつある。

また昨年より実施した調剤監査の改善により、調剤の安全性が高まっている。

最近の傾向として、患者が薬の詳しい情報を望んでおり、漢方薬の情報提供をどのように行うかが、今後の検討課題である。

◇教育啓蒙活動

帝京大学薬学部、共立薬科大学の東洋医学概論の講義に講師を派遣している。春期と夏期の年2回行っている2週間病院実習に北里大学薬学部、帝京大学薬学部から薬学生を受け入れた。当薬局のような漢方薬の実習が行える薬局は少ないため、今年度も希望者が増加した。実習終了後に茶話会を開き、学生とスタッフの率直な意見交換を行っており、当薬剤部の実習を履修した薬学生は東洋医学に対する興味がさらに高まり、実習で得た知識を将来に役立てたいと考えているようである。また北里大学薬学部3年生の半日実習も実施している。

一方、毎年夏に行われている医学生のための夏期セミナーでは、例年通り漢方薬に触れる機会の少ない医学生各自が漢方薬の調剤を行い、実際に煎じ薬を煎じて服用する薬局実習を行った。

今年度研究生を2名受け入れた。1名は1年間の研修期間中、漢方薬局業務に必要な実務実習および漢方薬学の基礎的な講義、生薬のスライド学習などを実施した。短期研究生として受け入れた研究生は養命酒製造株式会社薬事事業部より派遣されており、お客様相談室の業務の充実を目的に、当薬剤部にて研修を行った。

また9月に開催された「東洋医学健康フォーラム」では、漢方薬の産地や調剤方法の見学・漢方薬の説明・試飲を行い、今年度は新たに「秋の七草」のパネル展示を行い、好評であった。

◇学会報告

- 1) 坂田幸治, 西郡秀文, 金 成俊, 山田陽城: 漢方薬局における3次元HPLCパターン分析を用いた生薬品質評価の検討, 日本薬学会 123年会, 長崎, 2003. 3. 21-29
- 2) 緒方千秋, 金 成俊, 山田陽城, 早崎知幸, 花輪壽彦: 癌患者に対する漢方治療の意義と薬剤師の役割, 第54回日本東洋医学会学術総会, 福岡, 2003. 5. 16-18
- 3) 坂田幸治, 金 成俊, 山田陽城, 花輪壽彦: 古典に基づく漢方薬の特殊な煎じ方についての検討—阿膠—, 第54回日本東洋医学会学術総会, 福岡, 2003. 5. 16-18
- 4) 今野初子, 金 成俊, 緒方千秋, 坂田幸治, 山田陽城, 花輪壽彦: 病院漢方薬局への漢方薬服用後の問い合わせの現況と対応(第2報), 第54回日本東洋医学会学術総会, 福岡, 2003. 5. 16-18
- 5) 中村恵子, 緒方千秋, 金 成俊, 坂田幸治, 山田陽城, 花輪壽彦: 北里東医研における初診患者動向と服薬指導への応用, 第54回日本東洋医学会学術総会, 福岡, 2003. 5. 16-18
- 6) 金 成俊, 坂田幸治, 山田陽城, 花輪壽彦: 漢方薬の服薬指導時に必要な煎じ薬の濃度に影響するエキス収率の検討, 第20回和漢医薬学会大会, 熊本, 2003. 8. 30-31

◇その他

- 1) 金 成俊, 花輪壽彦: 漢方薬の構成生薬と禁忌, 治療 Vol. 85. 026-. 37(2003)
- 2) 金 成俊: 自然の恵みから生まれた漢方薬, 帝京大学薬学部公開講座, 帝京大学薬学部, 神奈川, 2003. 9. 18
- 3) 緒方千秋: 悪性腫瘍に対する漢方治療の意義

と薬剤師の役割, 帝京大学薬学部公開講座,
帝京大学薬学部, 神奈川, 2003. 10. 2

4) 金 成俊: 漢方薬の服薬指導, 第 30 回昭和大学
東洋医学研究会, 昭和大学医学部, 東京,
2003. 12. 16

5) 西郡秀文, 坂田幸治: 煎じ代行業務 (煎じ薬
のレトルトパック), 北里アイデア賞受賞,
2003. 6

Ⅲ. 研究部門

研究部門長 山 田 陽 城 (兼担)

Ⅲ-1. 基礎研究部

部長 (兼担) 山 田 陽 城 (北里大学北
里生命科学研究所和漢薬物
学研究室教授)

副部長 (兼担) 清 原 寛 章 (北里大学北
里生命科学研究所和漢薬物
学研究室助教授)

室長補佐 (兼担) 永 井 隆 之 (北里大学北
里生命科学研究所和漢薬物
学研究室講師)

室長補佐 (兼担) 松 本 司 (北里大学北
里生命科学研究所和漢薬物
学研究室講師)

主任研究員 (兼担) 矢 部 武 士 (北里大学北
里生命科学研究所和漢薬物
学研究室講師)

研究員 (兼務) 金 成 俊
(薬剤部副部長)

研究員 (兼務) 坂 田 幸 治
(薬剤部副主任)

研究員 (兼務) 西 郡 秀 文
(薬剤部薬剤師)

客員研究員 布 目 慎 勇
客員研究員 Sahar Abdel-Wahab Mhamed
El-Mekkawy

留学研究員 Pranorm Khaonek (タイ・チ
ュラロンコン大学平成 15 年 5
月 1 日～平成 15 年 9 月 1 日)

研究生 高 橋 哲 史 (北里大学大
学院・薬学研究科博士課程院
生)

研究生 江 森 道 子 (北里大学大
学院・感染制御科学府修士課
程院生)

研究生 内 田 太 一 (北里大学大
学院・感染制御科学府修士課
程院生)

研究生 金 光 花 月 子 (北里大学大
学院・感染制御科学府修士課
程院生)

研究生 佐 柳 友 規 (北里大学大
学院・感染制御科学府修士課
程院生)

研究生 高 際 麻 奈 未 (北里大学大
学院・感染制御科学府修士課
程院生)

研究生 西 尾 昌 子 (北里大学大
学院・感染制御科学府修士課
程院生)

研究生 野 中 一 樹 (北里大学大
学院・感染制御科学府修士課
程院生)

研究生 成 川 晃 代 (共立薬科大
学大学院・薬学研究科修士課
程院生)

研究生 西 村 佳 子 (共立薬科大
学大学院・薬学研究科修士課
程院生)

◇研究概要

基礎研究部では漢方薬の薬効の科学的解明を目的として漢方方剤や生薬の薬理及びその作用成分の解明や作用機序の生化学的解明に関する研究を行っている。特に漢方処方薬の薬効解明では臨床効果との関連を検討するため臨床研究部との共同研究も進めている。研究テーマは「漢方処方の薬効解明」, 「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」, 「和漢薬の新しい作用とその作用物質の解明」の 3 つに大別される。

今年度の研究テーマのうち「漢方処方の薬効とその作用物質の解明」では, 1) 香蘇散の抗うつ作用の解析, 2) 十全大補湯及び補中益気湯の鼻腔粘膜免疫系に対する作用の解析, 3) 十全大補湯および構成生薬中の腸管免疫調節物質の解明について検討した。

「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」では 1) 柴胡ペクチン性多糖 B リンパ球幼若化活性発現におけるシグナル伝達および多糖受容体の解明, 2) 和漢薬中の薬理活性ペクチン様多糖に対するヒト血清中の多糖認識抗体の解析, 3) 蒼朮中の腸管免疫賦活化アラビノガラクトサンの活性発現糖鎖の解析について検討した。

「和漢薬の新しい作用とその作用物質の解明」では 1) 半夏の経鼻接種インフルエンザワクチンに対する経口アジュバントの作用機序の解析, 2) 和漢薬に含まれる抗マラリア物質等の新規な抗感染物質の解明について研究を行った。また, 日

タイ拠点大学方式学術交流事業の一環として、山田陽城教授及び清原寛章助教授がタイ国バンコクで開催された日タイジョイントセミナーに参加し、山田教授が「香蘇散の抗うつ様作用」の招待講演を行った。また、基礎研究部ではこの他、フランス、ノルウェー、オランダ、中国、台湾、韓国などの国外及び国内の大学や研究機関との種々の共同研究も進めている。

◇原 著

- 1) T. Yabe, H. Tuchiida, H. Kiyohara, T. Takeda and H. Yamada: Induction of NGF synthesis in astrocytes by onjisaponins of *Polygala tenuifolia*, constituents of Kampo (Japanese herbal) medicine, *Ninjin-Yoei-To, Phytomedicine*, 10, 106-114 (2003)
- 2) T. Shirahata, T. Sunazuka, K. Yoshida, D. Yamamoto, Y. Harigaya, T. Nagai, H. Kiyohara, H. Yamada, I. Kuwajima and S. Omura: Total synthesis and adjuvant activity of all stereoisomers of pinellic acid, *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, 13, 937-941 (2003)
- 3) K. Ootoguro, H. Ui, A. Ishiyama, N. Arai, M. Kobayashi, Y. Takahashi, R. Masuma, K. Shiomi, H. Yamada, S. Omura: In vitro antimalarial activities of the microbial metabolites, *J. Antibiot.*, 56, 322-324 (2003)
- 4) K. Ootoguro, H. Ui, A. Ishiyama, M. Kobayashi, H. Togashi, Y. Takahashi, R. Masuma, H. Tanaka, H. Tomoda, H. Yamada and S. Omura: In vitro and in vivo antimalarial activities of a non-glycosidic 18-membered macrolide antibiotic, Borrelidin, against drug-resistant strains of *Plasmodia*, *J. Antibiot.*, 56, 727-729 (2003)
- 5) T. Matsumoto, Y. -J. Guo, T. Ikejima and H. Yamada: Induction of cell cycle regulatory proteins by murine B cell proliferating pectic polysaccharide from the roots of *Bupleurum falcatum* L., *Immunology Letters*, 89, 111-118 (2003)
- 6) S. Nunome, A. Ishiyama, M. Kobayashi, K. Ootoguro, H. Kiyohara, H. Yamada and S. Omura: In vitro Antimalarial activity of Biflavonoids from *Wikstroemia indica*, *Planta Medica*, 69, 1-3 (2003)
- 7) C. S. Nergard, D. Diallo, T. E. Michaelsen, K. E. Malterud, H. Kiyohara, T. Matsumoto, H. Yamada and B. S. Paulsen: Isolation, partial characterisation and immunomodulating activities of polysaccharides from *Vernonia kotschyana* Sch. Bip. ex Walp, *Journal of Ethnopharmacology*, in press.
- 8) H. Kiyohara, T. Matsumoto and H. Yamada: Combination effect of herbs in a multiherbal formula: Expression of Juzen-tai ho-to's immunomodulating activity on intestinal immune system, Evidence based Complement. Alternat. Med., in press
- 9) I. Taguchi, H. Kiyohara, T. Matsumoto, H. Yamada: Structure of oligosaccharide side chains in intestinal immune system modulating arabinogalactan from rhizomes of *Atractylodes lancea* DC., *Carbohydr. Res.* in press

◇招待講演

- 1) T. Nagai, H. Kiyohara, T. Sunazuka and H. Yamada: Intranasally and orally effective adjuvants from Chinese and Japanese medicinal herbs for nasal influenza vaccine, The 3rd World Congress on Medicinal and Aromatic Plants for Human Welfare, Chiang Mai (Thailand), 2003. 2. 3~7
- 2) 山田陽城: 免疫・神経系と漢方, 第19回茨城県東洋医学研究会学術講演会, 茨城, 2003. 7. 15
- 3) T. Nagai: Anti-influenza virus activity of a Kampo medicine and development of adjuvant for nasal influenza vaccine from medicinal herb, The 9th Southeast Asian-Western Pacific Regional Meeting of Pharmacologists, Busan (Korea) 2003. 8. 19~23
- 4) 永井隆之, 清原寛章, 砂塚敏明, 江森道子, 鈴木雄次郎, 山田陽城: 和漢薬からのワクチンアジュバントの開発の試み, 第20回和漢医薬学会大会, シンポジウム⑤和漢薬から創薬へ, 熊本, 2003. 8. 30~31
- 5) 山田陽城: 気道炎症モデルマウスに対する神経成長因子を介した小青竜湯の作用機序の解明, 第23回日本小児東洋医学会秋季大会, 神奈川, 2003. 9. 14
- 6) 松本司: おなか教えてくれる漢方薬の効果, 帝京大学薬学部公開講座, 神奈川, 2003. 9. 25

- 7) 山田陽城: 十全大補湯および補中益気湯の薬効の比較-上気道粘膜免疫系に対する作用について-, 第 3 回日本臨床中医薬学会学術集會 日中中医薬シンポジウム, 静岡, 2003. 11. 1
- 8) 山田陽城: 和漢薬研究から糖鎖生物学へ, Glyco Tokyo 2003 シンポジウム, 東京, 2003. 11. 22
- 9) H. Yamada, N. Ito, T. Nagai, Y. Yabe and T. Hanawa: Antidepressant-like activity of a Kampo (Japanese herbal) medicine, Koso-san (Xi ang-Su-San), JSPS-NRCT Core University System on, Natural Medicine in Pharmaceutical Sciences, The Joint Seminar, "RECENT ADVANCES IN NATURAL MEDICINE RESEARCH", Bangkok (Thailand), 2003. 12. 2 ~4

◇著 書

- 1) 山田陽城: 加味温胆湯 (分担執筆) (寺澤捷年, 戸川達男ら編), 長寿科学辞典, p. 899-900, 医学書院, 2003

◇学会発表

- 1) 高橋哲史, 松本司, 中村正彦, 松井英則, 山田陽城: 培養胃粘膜細胞を用いた *Helicobacter Pylori* 感染モデル系の構築, 第 76 回日本細菌学会総会, 熊本, 2003. 4. 1 ~3
- 2) 松本司, 西山加奈子, 山田陽城: 柴胡の免疫調節多糖による B 細胞幼若化シグナルの解析, 日本薬学会第 123 年会, 長崎, 2003. 3. 27 ~29
- 3) 伊藤直樹, 永井隆之, 布目慎勇, 花輪壽彦, 山田陽城: 漢方処方「香蘇散料」の薬効発現機序の解明 (II) -抗うつ様作用メカニズムの検討-, 日本薬学会第 123 年会, 長崎, 2003. 3. 27~29
- 4) 西山加奈子, 松本司, 山田陽城: 柴胡の免疫調節多糖による B 細胞幼若化における Lipid rafts の関与, 日本薬学会第 123 年会, 長崎, 2003. 3. 27~29
- 5) 田口育枝, 清原寛章, 松本司, 山田陽城: 蒼朮由来の腸管免疫調節 arabino-3, 6-galactan の活性発現糖鎖の解明, 日本薬学会第 123 年会, 長崎, 2003. 3. 27~29
- 6) 内田太一, 清原寛章, 松本司, 山田陽城: 多糖認識自然抗体に対する和漢生薬由来多糖の反応性とその免疫薬理作用の検討, 日本薬学会第 123 年会, 長崎, 2003. 3. 27~29
- 7) 清原寛章, 松本司, 劉光原, 田口育枝, 山田

陽城: 蒼朮の腸管免疫調節アラビノガラクトンの活性発現糖鎖の解析, 第 24 回日本糖質学会年会, 横浜, 2003. 7. 29~31

- 8) 清原寛章, 松本司, 山田陽城: 十全大補湯の腸管免疫調節物質の解析-活性発現における複合効果の解析-, 第 20 回和漢医薬学会大会, 熊本, 2003. 8. 30~31
- 9) 松本司, 西山加奈子, 山田陽城: 柴胡の免疫調節多糖による B 細胞幼若化シグナルの解析, 第 20 回和漢医薬学会大会, 熊本, 2003. 8. 30 ~31
- 10) 布目慎勇, 清原寛章, 山田陽城, 石山亜紀, 小林美幸, 乙黒一彦, 大村智: 中国産生薬了哥王根の抗マラリア活性物質, 日本生薬学会第 50 回年会, 東京, 2003. 9. 12~13
- 11) K. Kanemitsu, M. Shimizu, Joan P. Schwartz, T. Yabe and H. Yamada: PEDF stimulates expression of survival-related genes in cerebellar granules cells, 第 46 回日本神経化学会・第 41 回日本生物物理学会合同年会, 新潟, 2003. 9. 23~26
- 12) T. Sanagi, M. Nishio, Joan P. Schwartz, T. Yabe, H. Yamada: PEDF stimulates expression of inflammatory-related genes in glial cells, 第 46 回日本神経化学会・第 41 回日本生物物理学会合同年会, 新潟, 2003. 9. 23~26
- 13) H. Kiyohara, I. Taguchi, T. Matsumoto, H. Yamada: Structure of oligosaccharide side chains in intestinal immune system modulating arabinogalactan from rhizomes of *Atractylodes lancea* DC., JSPS-NRCT Core University System on, Natural Medicine in Pharmaceutical Sciences, The Joint Seminar, "RECENT ADVANCES IN NATURAL MEDICINE RESEARCH", Bangkok (Thailand), 2003. 12. 2 ~4

◇その他

- 1) 山田陽城: 生活習慣病(ガン等)と漢方薬, 漢方薬・生薬研修会, 大阪, 2003. 1. 26
- 2) 山田陽城: 香蘇散料の薬効発現機序の解明? 抗うつ様効果に関する検討?, 北里大学大学院医療系研究科特論講義, 神奈川, 2003. 5. 30
- 3) 高橋哲史, 松本司, 中村正彦, 松井英則, 清原寛章, 山田陽城: 培養胃粘膜細胞を用いた *Helicobacter pylori* 感染モデル系の構築, 第 16 回「遺伝子とその周辺」研究会, 東京, 2003. 7. 30~31
- 4) 永井隆之: 和漢薬と感染予防, 北里大学大学

Ⅲ-2. 臨床研究部

| | |
|---------|--------------|
| 臨床研究部長 | 花 輪 壽 彦 (兼任) |
| 主任研究員 | 日 向 須美子 (専任) |
| 研究員 | 遠 藤 真 理 (専任) |
| 研究員 | 伊 藤 直 樹 (専任) |
| 臨床検査技師 | 竹 内 ゆかり (専任) |
| 鍼灸研究室室長 | 石 野 尚 吾 (兼務) |
| 研究員 | 柳 澤 紘 (兼務) |
| | 石 原 武 (兼務) |
| | 今 泉 護 (兼務) |
| | 小 山 基 (兼務) |
| 漢方研究室室長 | 村 主 明 彦 (兼務) |
| 研究員 | 伊 藤 剛 (兼務) |
| | 鈴 木 邦 彦 (兼務) |
| | 及 川 哲 郎 (兼務) |
| | 早 崎 知 幸 (兼務) |
| | 高 橋 裕 子 (兼務) |
| | 大 坪 眞 紀 (兼務) |
| | 米 田 吉 位 (兼務) |
| | 八 代 忍 (兼務) |
| | 櫻 井 正 智 (兼務) |
| | 金 成 俊 (兼務) |
| | 緒 方 千 秋 (兼務) |
| | 坂 田 幸 治 (兼務) |
| | 西 郡 秀 文 (兼務) |
| 大学院生 | 小田口 浩 |
| | 若 杉 安希乃 |
| 研究生 | 熊 谷 由紀絵 |
| | 浜 田 幸 宏 |
| | 吉 永 明 史 |
| | 山 田 純 子 |
| | 西 村 郁 子 |
| | 長谷川 愛 子 |
| | 藤 本 まなみ |
| | 中 村 礼 |

◇研究概要

臨床研究部は、漢方診療部および鍼灸診療部との連携のもとで、漢方薬、鍼刺激の臨床効果の評価を行うと共に、その作用機序の解明や新たな薬効の開発を目的とした臨床研究、基礎研究を行っている。そのため、専任のスタッフのみならず、医師、鍼灸師、薬剤師等の多くが兼務研究員として参画し、以下の研究を行っている。

- (1) 「気剤の総合的研究」
- (2) 「薬価非収載の漢方方剤の有用性」

- (3) 「冷え性」の病態解明と漢方治療について」
- (4) 「癌の転移における漢方薬の効果とそのメカニズム」
- (5) 「エストロゲン受容体に対する漢方薬の作用機序」
- (6) 「疼痛に対する鍼治療の効果について」
- (7) 「冷え性の鍼灸治療」
- (8) 「鍼の皮膚への効果」
- (9) 「変型性膝関節症の鍼灸治療」
- (10) 「食物アレルギーに対する漢方方剤の有用性」

食物アレルギーの乳幼児に対して漢方薬が有用な例が多く見られる。そこで、マウスを用いてアレルギーを引き起こすメカニズムの解明と漢方方剤の有用性を検討している。

(11) 「香蘇散料, 半夏厚朴湯の薬効発現機序の解明-抗うつ様効果の検討-」

(12) 「漢方薬の血液凝集, 凝固に対する作用」
漢方薬では、微小循環を良くする処方が個々の状態により使用されるが、その薬理作用、ヒトでの *in vivo* の作用についての検討はほとんどない。血液凝固能に関係しており、命にかかわるという点で一刻も早い作用機序の解明と科学的評価方法の開発が望まれる。血小板機能を中心とした検討を行っている。

(13) 「非襲来的検査法である脈波計による動脈硬化に対する漢方薬の薬効評価」

(14) 「非襲来的検査法であるイリスコーダ及びNIRSによる漢方薬の薬効評価」

(15) 「腸管の機能と免疫研究会」

昨年度に引き続き、第3回研究会が2003. 11. 15に開催され、「消化管機能に及ぼす漢方薬の影響-半夏厚朴湯を中心に-」のテーマで発表を行った。

◇学会発表・研究会発表

- 1) 日向須美子, 熊谷由紀絵, 日向昌司, 山形貞子, 山形達也, 花輪壽彦: 癌細胞の運動能に対する漢方薬の効果, 第20回和漢医薬学会大会, 熊本, 2003. 8. 30~31
- 2) 日向須美子, 日向昌司, 山形貞子, 山形達也, 花輪壽彦: 高転移性FBJ-LL細胞の運動能に対する漢方薬の作用, 第62回日本癌学会総会, 名古屋, 2003. 9. 25~27
- 3) 及川哲郎: 消化管機能に及ぼす漢方薬の影響-半夏厚朴湯を中心に-, 第3回腸管の機能と免疫研究会学術集会, 東京, 2003. 11. 15
- 4) 遠藤真理, 花輪壽彦: 漢方薬の血液凝固系及び血小板凝集能に対する影響, 第20回和漢医薬学会大会, 熊本, 2003. 8. 30~31
- 5) 伊藤直樹, 永井隆之, 矢部武士, 花輪壽彦, 山

田陽城：気剤の抗うつ様効果の検討—香蘇散料の抗うつ様作用メカニズム—, 第20回和漢医薬学会大会, 熊本, 2003. 8. 30~31

Ⅲ-3. 医史学研究部

| | |
|--------------|--------------|
| 部長 | 小曾戸 洋 |
| 客員部長 (北里研究所) | 真 柳 誠 |
| 客員研究員 (有給) | 友 部 和 弘 |
| 研究助手 (有給) | 森 田 久美子 |
| 顧問 (東医研) | 多 留 淳 文 |
| 客員研究員 | 猪 飼 祥 夫 |
| 客員研究員 | 浦 山 き か |
| 客員研究員 | 大 浦 宏 勝 |
| 客員研究員 | 小 林 健 二 |
| 客員研究員 | 篠 原 孝 市 |
| 客員研究員 | 舘 野 正 美 |
| 客員研究員 | 戸 出 一 郎 |
| 客員研究員 | 長 野 仁 |
| 客員研究員 | 新 村 拓 |
| 客員研究員 | 西 卷 明 彦 |
| 客員研究員 | 町 泉 寿 郎 |
| 客員研究員 | 三 橋 かほり |
| 客員研究員 | 宮 川 浩 也 |
| 客員研究員 (米国) | Andrew Goble |
| 客員研究員 (中国) | 郭 秀 梅 |
| 無給研究生 | 天 野 陽 介 |
| 無給研究生 | 鈴 木 達 彦 |

◇研究概要

当研究部の前身、1983年に設置された医史学研究室で、1992年12月より医史学研究部に昇格し、この下に医史文献研究室が置かれる。東洋医学は古い歴史を持つ伝統医学であるから、豊富な経験と知識の多くは古文獻の形で伝えられている。従って、東洋医学を研究し、現代に十分に活用していくためには、まず歴史背景そして文献資料を把握し、その本質を明らかにする必要がある。これが当研究部の研究目的とするところで、開設以来、各研究員によって多種多彩な研究が活発になされ、日本医史学会・日本東洋医学会をはじめ、各種の学会で大きな成果を上げている。研究の基本的資料となる文献の整備にも精力を注ぎ、既に日本全国はもとより、外国の特殊研究機関と交流を結び、多くの貴重資料を獲て収蔵している。また文部科学省・東亜医学協会などから助成金を得、収蔵した古医学史料(典籍・文書類)の補修・目録作成には鋭意尽力し、医学文化財の保存につとめている。

◇原 著

- 1) 小曾戸洋：宋版『備急総効方(備全総効方)』の書誌研究, 杏雨, 6, 202~221 (2003. 4)
- 2) 町泉寿郎, 小曾戸洋, 花輪壽彦：多紀元簡失脚の背景—医学館官立化当初の一事情, 日本医史学雑誌 49, 205~221, (2003. 6)
- 3) 長野仁：『鍼灸拔萃』はいかにつくられたか(上), 経絡治療, 153, 43~49 (2003)

◇総 説

- 1) 小曾戸洋：「漢方」の語の由来と意味, 日本東洋医学雑誌 54, 1~2 (2003. 1)
- 2) 小曾戸洋：東洋医学史とアレルギー疾患, 漢方と最新治療, 12 (2), 110~114 (2003. 5)
- 3) 小曾戸洋：Origin and Meaning of the World “Kampo”, 日本東洋医学雑誌 54, 259~260 (2003. 3)
- 4) 町泉寿郎, 小曾戸洋, 花輪壽彦：蔵書からみた大塚敬節の学問と人, 日本東洋医学雑誌 54, 749~762 (2003. 7)
- 5) 真柳誠：日本漢方医学権威矢数道明, 中華医史雑誌, 33, 93~95, (2003. 4)
- 6) 町泉寿郎：〈2002年度パネルセッション1「思想の学と書物の学と」〉, 江戸後期の医学の場合—幕府医学館の学績を中心に—, 日本思想史学 35, 30~36 (2003)

◇プロシーディング

- 1) 小曾戸洋：和漢薬の来歴に関する新史料, 日本医史学雑誌, 49, 377~378 (2003. 6)
- 2) 小曾戸洋：伝統は未来医療の礎4. 附子・烏頭の歴史的変遷, 日本東洋医史学雑誌 54, 335~339 (2003. 3)
- 3) 小曾戸洋：江戸医学館の業績 多紀元簡・元堅の功績, 日本東洋医学会, 平成14年度第1回東京都部会, 東京, 2003. 1. 25, 漢方の臨床 50, 759~765 (2003. 5)
- 4) 町泉寿郎：江戸医学館の業績 医学館の歴史とその意義, 日本東洋医学会, 平成14年度第1回東京都部会, 東京, 2003. 1. 25, 漢方の臨床 50, 743~747 (2003. 5)
- 5) 戸出一郎：江戸医学館の業績 医学館の医師たちの臨床, 日本東洋医学会, 平成14年度第1回東京都部会, 東京, 2003. 1. 25, 漢方の臨床 50, 748~758 (2003. 5)
- 6) 町泉寿郎, 戸出一郎：江戸医学館における臨床記録, 日本医史学雑誌, 49, 373~375 (2003. 6)
- 7) 町泉寿郎：医学館年表作成をめざして—基礎資料解説—, 日本医史学雑誌, 49, 379~380 (2003. 6)

- 8) 真柳誠：「魯迅のエッセイ『皇漢医学』について」, 第 104 回日本医史学会総会, 2003. 4. 12～13, 日本医史学雑誌, 49, 40～41 (2003. 3)
- 9) 猪飼祥夫：張家山漢墓漢簡『引書』にみる導と引について, 日本医史学会関西支部, 大阪, 2003. 6. 1, 医譚, 79, 33～35 (2003. 6)
- 10) 猪飼祥夫：湖北省荊州市の周家台三十号秦墓竹簡の病方について, 日本医史学会関西支部, 大阪, 2003. 12. 15, 醫譚, 80, 75～77 (2003. 12)
- 本東洋医学会学術総会, 福岡, 2003. 5. 16～18
- 13) 町泉寿郎：東京大学古典講習科の人々, 第 42 回無窮会東洋文化談話会研究例会, 東京, 2003. 9. 14
- 14) 三橋かほり：Engendering Poor Health among Female Migrants in Southern China (中国における出稼ぎ 女子の不健康の再生産), 第 5 回東京大学大学院医学系研究科健康社会学ライフ研究会, 東京, 2003. 9. 20
- 15) 戸出一郎：医学館における医学考試について—口科を中心として—, 日本歯科医史学会, 東京, 2003. 10. 18
- 16) 猪飼祥夫：湖北省荊州市の周家台三十号秦墓竹簡の病方について, 日本医史学会関西支部春季大会, 京都, 2003. 6. 1
- 17) 小曾戸洋：馬王堆医書には“灸”の字はない, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 18) 真柳誠：台湾故宫博物院所蔵の鍼灸関連孤本, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 2003. 12. 6～7
- 19) 町泉寿郎：江戸医学館における鍼灸教育, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 20) 友部和弘：三輪東朔の生没年再考, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 21) 猪飼祥夫：纏足と鍼灸—近代の習俗から見た婦女の足部経穴—, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 22) 宮川浩也, 天野陽介：馬王堆『養生法』の再検討, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 23) 鈴木達彦：脈絡の意義, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 24) 大浦滋観：江島杉山神社秘蔵の『杉山真伝流』について, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 25) 長野仁：多賀法印の事績と法印流の伝書について, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 26) 小林健二：『日本医譜』について, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 27) 浦山きか：『范汪方』について, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7

◇学会発表

- 1) 小曾戸洋, 町泉寿郎, 花輪壽彦：橋本龍雲家伝の古医書類, 第 104 回日本医史学会総会, 福岡, 2003. 4. 12～13
- 2) 友部和弘, 町泉寿郎, 小曾戸洋, 花輪壽彦：岡田昌春文庫 (一) 書籍類, 第 104 回日本医史学会総会, 福岡, 2003. 4. 12～13
- 3) 町泉寿郎, 小曾戸洋, 花輪壽彦：岡田昌春文庫 (二) 書簡類, 第 104 回日本医史学会総会, 福岡, 2003. 4. 12～13
- 4) 真柳誠：魯迅のエッセイ『皇漢医学』について, 第 104 回日本医史学会総会, 福岡, 2003. 4. 12～13
- 5) 館野正美：吉益東洞 (親試実験) の背景としての金瘡—医史的概観, 第 104 回日本医史学会総会, 福岡, 2003. 4. 12～13
- 6) 郭秀梅, 加藤久幸：傷寒学を研究する先駆—高若訥, 第 104 回日本医史学会総会, 福岡, 2003. 4. 12～13
- 7) 杉浦雄, 篠原孝市：近世日本鍼灸史における『阿是要穴』の意義, 第 104 回日本医史学会総会, 福岡, 2003. 4. 12～13
- 8) ベイ・アレキサンダー, 花輪壽彦：統計と医学的な事実—高木兼寛及び脚気論, 第 104 回日本医史学会総会, 福岡, 2003. 4. 12～13
〔以上 1)～8) のプロシーディングは, 日本医史学雑誌, 49, 1 (2003. 3) に掲載〕
- 9) 小曾戸洋, 友部和弘, 町泉寿郎, 石野尚吾, 花輪壽彦：『名医彙論』—多紀元堅の知られざる編著, 第 54 回日本東洋医学会学術総会, 福岡, 2003. 5. 16～18
- 10) 友部和弘, 小曾戸洋, 石野尚吾, 花輪壽彦：三輪東朔の知られざる著書『妙薬集』, 第 54 回日本東洋医学会学術総会, 福岡, 2003. 5. 16～18
- 11) 町泉寿郎, 小曾戸洋, 石野尚吾, 花輪壽彦：江戸医学館における鍼灸講義, 第 54 回日本東洋医学会学術総会, 福岡, 2003. 5. 16～18
- 12) 長野仁, 小曾戸洋, 石野尚吾, 花輪壽彦：森中虚自筆本『意仲玄奥』について, 第 54 回日本東洋医学会学術総会, 福岡, 2003. 5. 16～18
- 13) 町泉寿郎：東京大学古典講習科の人々, 第 42 回無窮会東洋文化談話会研究例会, 東京, 2003. 9. 14
- 14) 三橋かほり：Engendering Poor Health among Female Migrants in Southern China (中国における出稼ぎ 女子の不健康の再生産), 第 5 回東京大学大学院医学系研究科健康社会学ライフ研究会, 東京, 2003. 9. 20
- 15) 戸出一郎：医学館における医学考試について—口科を中心として—, 日本歯科医史学会, 東京, 2003. 10. 18
- 16) 猪飼祥夫：湖北省荊州市の周家台三十号秦墓竹簡の病方について, 日本医史学会関西支部春季大会, 京都, 2003. 6. 1
- 17) 小曾戸洋：馬王堆医書には“灸”の字はない, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 18) 真柳誠：台湾故宫博物院所蔵の鍼灸関連孤本, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 2003. 12. 6～7
- 19) 町泉寿郎：江戸医学館における鍼灸教育, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 20) 友部和弘：三輪東朔の生没年再考, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 21) 猪飼祥夫：纏足と鍼灸—近代の習俗から見た婦女の足部経穴—, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 22) 宮川浩也, 天野陽介：馬王堆『養生法』の再検討, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 23) 鈴木達彦：脈絡の意義, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 24) 大浦滋観：江島杉山神社秘蔵の『杉山真伝流』について, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 25) 長野仁：多賀法印の事績と法印流の伝書について, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 26) 小林健二：『日本医譜』について, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7
- 27) 浦山きか：『范汪方』について, 第 4 回鍼灸医学史研究会, 東京, 2003. 12. 6～7

◇シンポジウム・講演会

- 1) 小曾戸洋：漢方の三大古典, 日本東洋医学会東北地区教育講演会, 仙台, 2003. 3. 9
- 2) 小曾戸洋：漢方の歴史, 第 23 回日本小児東洋医学会秋季大会市民公開講座, 川崎, 2003. 9. 14
- 3) 小曾戸洋：鍼灸の古典について, 東洋医療学

校協会第 25 回学術大会, 教育講演, 大阪,
2003. 10. 16

- 4) 真柳誠: 日本から里帰りした中国古医籍, 茨城県日中友好協会・日中平和友好条約締結 25 周年記念 2003 年新春交流会記念講演, 水戸, 2003. 1. 27
- 5) 真柳誠: 中国に還流した日本所伝の中国古医籍, 平成 14 年度文部科学省研究費特定領域研究「東アジア出版文化の研究」研究会第 6 回 (F)「出版交流」班主催研究会 (鴨川学会), 京都, 2003. 2. 1
- 6) 真柳誠: 日本における伝統医学史研究, 韓国韓医学研究院講演会, ソウル, 2003. 3. 13
- 7) M Mayanagi: "Japan and Traditional Medicine in Modern China: The Impact of Japanese Medical Texts in the Period of Republican China", Interweaving Medical Traditions: Europe and Asia, 1600-2000. International Workshop, Cambridge, England, 2003. 9. 11~13
- 8) 小曾戸洋: 江戸時代医学・本草資料の整理と研究, 第 2 回江戸のモノづくり研究集会・国際シンポジウム, 東京, 2003. 7. 4
- 9) 真柳誠: 『靈枢』は高麗政府所蔵本『鍼経』に基づく, 国際東亜細亜伝統医学史学術大会, ソウル, 2003. 11. 19
- 10) 真柳誠: 韓国伝統医学文献と日中韓の相互伝播, 韓国韓医学研究院講演会ソウル, 2003. 11. 20
- 11) 真柳誠: 東アジア所在の医薬古典籍, 第 4 回海外所蔵日本資料データベース会議, 福岡, 2003. 12. 14
- 12) 小曾戸洋: 考証医学の人々とその業績, 武田科学振興財団杏雨書屋 第 11 回研究会講演「江戸の考証医学者たち」, 大阪, 2003. 5. 31
- 13) 町泉寿郎: 医学館の軌跡—考証学の拠点形成をめぐる—, 武田科学振興財団杏雨書屋 第 11 回研究会講演「江戸の考証医学者たち」, 大阪, 2003. 5. 31
- 14) 戸出一郎: 医学館における医学考試について, 日本医史学会, 東京, 2003. 6. 28
- 15) 友部和弘: 医史学講義, 理療臨床公開講座, 横浜市立盲学校, 横浜, 2003. 5. 8~2003. 7. 10

◇その他

- 1) 小曾戸洋: 矢数道明先生を偲ぶ, 斯文, 111, 155~159 (2003. 3)
- 2) 小曾戸洋, 宮川浩也: 養生に学ぶ—古典から, AERA MOOK, 92, 114~119 (2003)
- 3) 猪飼祥夫: 書評 ヴォルフガング・ミヒェル

編著『ヘルマン・ブショフ: 痛風に関する詳細な研究及びその確実な治療法と効き目のある薬剤について—ヨーロッパにおける灸術に関する初の著書 (1676 年英語版)—』, 医道の日本, 719, 医道の日本社, (2003. 10)

- 4) 小曾戸洋: 古医書のはなし②最古の医書目録—『漢書』芸文志・方技, 伝統医学, 19, 33 (2003. 3)
- 5) 小曾戸洋: 古医書のはなし③馬王堆漢墓医書, 伝統医学, 20, 37 (2003. 6)
- 6) 小曾戸洋: 古医書のはなし④馬王堆漢墓医書 (その 2), 伝統医学, 21, 29 (2003. 9)
- 7) 小曾戸洋: 古医書のはなし⑤『史記』扁鵲倉公伝, 伝統医学, 22, 29 (2003. 12)
- 8) 真柳誠: 漢方一話 処方のいわれ 112—苓姜朮甘湯, 漢方医学, 27, 33 (2003. 2)
- 9) 小曾戸洋: 漢方一話 処方のいわれ 113—苓姜味辛夏仁湯, 漢方医学, 27, 80 (2003. 6)
- 10) 真柳誠: 漢方一話 処方のいわれ 114—黄連湯, 漢方医学, 27, 92 (2003. 6)
- 11) 真柳誠: 漢方一話 処方名のいわれ 116—排膿散及湯, 漢方医学, 27, 136, (2003. 8)
- 12) 小曾戸洋: 漢方一話 処方のいわれ 117—当归建中湯, 漢方医学, 27, 183 (2003)
- 13) 小曾戸洋: 漢方一話 処方のいわれ 118—川芎茶調散, 漢方医学, 27, 188 (2003. 9)
- 14) 小曾戸洋: 漢方一話 処方のいわれ 119—桂枝茯苓丸加薏苡仁, 漢方医学, 27, 220 (2003. 12)
- 15) 真柳誠: 漢方一話 処方のいわれ 120—麻子仁丸, 漢方医学, 27, 234 (2003. 12)
- 16) 町泉寿郎, 小曾戸洋, 花輪壽彦: 新出の多紀元堅門人録について (上), 漢方の臨床, 50, 425~441 (2003. 3)
- 17) 町泉寿郎, 小曾戸洋, 花輪壽彦: 新出の多紀元堅門人録について (下), 漢方の臨床, 50, 593~607 (2003. 4)
- 18) 小曾戸洋: 目でみる漢方資料館(173) 矢数道明先生賛 神農画像, 漢方の臨床, 50, 2~4 (2003. 1)
- 19) 真柳誠: 目でみる漢方資料館(174) 北京図書館の伊沢蘭軒旧蔵元版『千金方』, 漢方の臨床, 50, 194~196 (2003. 2)
- 20) 町泉寿郎: 目でみる漢方資料館(175) 吳秀三収集『医聖堂前哲帖』 (三)—桂川甫賢—, 漢方の臨床, 50, 346~348 (2003. 3)
- 21) 町泉寿郎: 目でみる漢方資料館(176) 吉益東洞の肖像, 漢方の臨床, 50, 490~492 (2003. 4)
- 22) 長野仁: 目でみる漢方資料館(177) 五雲子の『医工入式』序文, 漢方の臨床, 50, 634~636

(2003. 5)

- 23) 長野仁：目でみる漢方資料館(178)五雲子に仮託された扁鵲真流の鍼灸叢書，漢方の臨床，50, 794～796 (2003. 6)
- 24) 長野仁：目でみる漢方資料館(179)森中虚自筆本『家伝秘劑』，漢方の臨床，50, 962～964 (2003. 7)
- 25) 町泉寿郎：目でみる漢方資料館(180)森立之の遺墨，漢方の臨床，50, 1090～1092 (2003. 8)
- 26) 町泉寿郎，小曾戸洋：目でみる漢方資料館(181)吉益東洞筆「範学一則」，漢方の臨床，50, 1218～1220 (2003. 9)
- 27) 町泉寿郎，岡利幸：目でみる漢方資料館(182)吉益南涯の遺墨，漢方の臨床，50, 1354～13596 (2003. 10)
- 28) 小曾戸洋：目でみる漢方資料館(183)王肯堂と『証治準繩』，漢方の臨床，50, 1634～1636 (2003. 11)
- 29) 町泉寿郎，岡利幸：南涯先生遺文(四)，漢方の臨床，50, 1456～1458 (2003. 10)
- 30) 町泉寿郎：日本の500傑(38)，活，45, 29～31 (2003. 2)
- 31) 町泉寿郎：日本の500傑(39)，活，45, 44～46 (2003. 3)
- 32) 町泉寿郎：日本の500傑(40)，活，45, 61～63 (2003. 4)
- 33) 町泉寿郎：日本の500傑(41)，活，45, 76～80 (2003. 5)
- 34) 町泉寿郎：日本の500傑(42)，活，45, 92～95 (2003. 6)
- 35) 町泉寿郎：日本の500傑(43)，活，45, 107～110 (2003. 7)
- 36) 町泉寿郎：日本の500傑(44)，活，45, 124～127 (2003. 8)
- 37) 町泉寿郎：日本の500傑(45)，活，45, 139～142 (2003. 9)
- 38) 町泉寿郎：日本の500傑(46)，活，45, 156～159 (2003. 10)
- 39) 町泉寿郎：日本の500傑(47)，活，45, 174～175 (2003. 11)
- 40) 町泉寿郎：日本の500傑(48)，活，45, 190 (2003. 12)
- 41) 真柳誠：台湾訪書志I 故宮博物院所蔵の医薬古典籍(9)鍼灸之属(上)，漢方の臨床，50, 309～15 (2003. 2)
- 42) 真柳誠：台湾訪書志I 故宮博物院所蔵の医薬古典籍(10)鍼灸之属(下)，漢方の臨床，50, 925～931 (2003. 6)
- 43) 真柳誠：台湾訪書志I 故宮博物院所蔵の医薬古典籍(11)診法之属一経脈(上)，漢方

の臨床，50, 1061～1067 (2003. 7)

- 44) 真柳誠：台湾訪書志I 故宮博物院所蔵の医薬古典籍(12)診法之属一経脈(下)，漢方の臨床，50, 1190～1196 (2003. 8)
- 45) 真柳誠：台湾訪書志I 故宮博物院所蔵の医薬古典籍(13)医法之属[唐代医方書](上)，漢方の臨床，50, 1610～1614 (2003. 11)
- 46) 真柳誠：台湾訪書志I 故宮博物院所蔵の医薬古典籍(14)医法之属[唐代医方書](下)，50, 1725～1732 (2003. 12)

◇研究助成

平成15年度文部科学省助成科学研究費補助金(新規)特定領域研究(2)「江戸のモノづくり」に関する公募研究(14年度160万円・15年度90万円)，(代表者：小曾戸洋)「江戸時代医学・本草学資料の整理と研究」

平成15年度上原記念生命科学財団研究助成金，小曾戸洋「中国宋元明の医薬書の研究とその成果の公刊」

◇留学研究員に関する報告

順天堂大学医学部から郭秀梅氏(中国)を客員研究員として迎えた。米・オレゴン大学からアンドリュウ・ゴープル教授を客員研究員として迎えた。米・スタンフォード大学からアレキサンダー・ベイ氏を留学研究生として迎えた。

◇教育活動

本年度，小曾戸は筑波大学理療科・東京衛生学園専門学校，町は二松学舎大学大学院，友部は筑波技術短期大学・東洋鍼灸専門学校に，非常勤講師として出講し，東洋医学概論や日中医学文献を講じた。

◇学術活動

小曾戸は前年に引き続き第18期日本学術会議第7部会法医社会医学研究連絡委員をつとめ，また日本医史学会の常任理事・編集委員，日本東洋医学会の理事・編集幹事，武田科学振興財団杏雨書屋運営協議委員として活動。町は無窮会専門図書館の図書専門委員・評議員，日本医史学雑誌の編集委員をつとめるなど，対外的学術活動にも従事した。なお，町は9月末日をもって主任研究員から客員研究員(無給)となり，二松学舎大学東洋学研究所の講師に転属した。